

令和5年度 中越学園事業報告

1. 法人の概要

(1) 基本情報

- ①法人の名称 学校法人中越学園
 ②主たる事務所 住 所：新潟県長岡市御山町 80 番地 8
 T E L : 0258-39-1610 F A X : 0258-35-1157
 U R L : <https://www.nagaokauniv.ac.jp/guide/chuetsu-gakuen/>

(2) 設置する学校・学部・学科等

長岡大学 経済経営学部 経済経営学科
 中越高等学校 全日制 普通科

(3) 学校・学部・学科等の学生数の状況

(令和5年5月1日現在)

学校名	学部・学科	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
長岡大学	経済経営学部	125	117	450	447
中越高等学校	普通科	320	349	960	910

※令和4年度入学定員100名→125名へ変更。収容定員は経過期間中の人数

(4) 収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

学校名	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
長岡大学	124.5%	123.3%	115.8%	107.1%	99.3%
中越高等学校	109.0%	100.9%	95.7%	87.5%	94.8%

※長岡大学収容定員：令和元年度～令和3年度400名、令和4年度425名、令和5年度450名

※中越高等学校収容定員：960名

(5) 役員概要

理事定員：9名、監事定員：2名

(令和5年5月1日現在)

役職	氏名	就任年月日	常勤/非常勤	現職
理事長	村山 光博	令和4年4月1日	常勤	長岡大学 学長
理事	萩野 俊哉	令和4年4月1日	常勤	中越高等学校 校長
理事	室賀 俊介	令和2年6月1日	非常勤	
理事	鎌田 積 (外)	令和2年4月1日	非常勤	(学)都築学園 神戸医療未来大学 学長
理事	小島 孝之 (外)	令和2年4月1日	非常勤	(株)東亜 代表取締役社長
理事	小川 浩司 (外)	令和元年6月1日	非常勤	(株)相互タクシー 代表取締役社長
理事	佐竹 和行 (外)	令和3年4月1日	非常勤	(公社)中越防災安全推進機構 業務執行理事
理事	大出 恭子 (外)	令和3年6月1日	非常勤	green philosophy 代表
監事	北村 敏雄	令和3年7月20日	非常勤	北村公認会計士事務所 所長
監事	斉藤 稔	令和2年7月12日	非常勤	

※(外)は外部理事

(6) 評議員の概要

評議員定員：23名

(令和5年5月1日現在)

氏名	就任年月日	現職
轡田 雅晴	令和5年4月1日	長岡大学 事務局長
萩野 俊哉	令和4年4月1日	中越高等学校 校長
寺澤 喜義	令和3年4月1日	中越高等学校 事務長
金子 頼巳	令和元年6月1日	
矢澤 和比呂	令和2年4月1日	
覚張 良太	令和2年4月1日	
牛腸 正	令和3年6月11日	
上村 寛男	令和3年6月11日	
諸橋 陽一	令和2年4月1日	
村山 光博	令和4年4月1日	(学)中越学園理事長、長岡大学学長
佐竹 和行	令和3年4月1日	(公社)中越防災安全推進機構 業務執行理事
荒木 紳雄	令和3年4月1日	
井木 豊	令和5年4月1日	
竹樋 直也	令和4年4月1日	
駒形 直美	令和4年4月1日	
光野 和宏	令和5年4月1日	
田澤 廣之	令和2年6月1日	
室賀 俊介	令和2年6月1日	
鯉江 康正	令和4年4月1日	長岡大学 副学長
鎌田 積	令和2年4月1日	(学)都築学園 神戸医療未来大学 学長
小川 浩司	令和元年6月1日	(株)相互タクシー 代表取締役社長
若木 慈	令和5年4月1日	中越高等学校 教頭
後藤 暁	令和元年6月1日	中越高等学校 教頭

(7) 教職員の概要

(令和5年5月1日現在)

	本務教員数	本務職員数	兼務教員数	兼務職員数	平均年齢(本務教職員)
法人	0	1	0	(1) ※大学兼務1名	52.5歳
長岡大学	23	19	15	0	51.4歳
中越高等学校	63	6	9	0	42.0歳
計	85	25	21	(1)	全体平均:45.6歳

(8) その他

役員賠償責任保険契約(令和5年度)の内容

【加入責任期間】令和5年4月1日～令和6年4月1日

【引受保険会社】東京海上日動火災保険(株)

【被保険者】中越学園の理事・監事、評議員、執行役員、管理職従業員、社外派遣役員、退任役員

【支払限度額・免責金額】保険期間中総支払限度額 300,000千円(免責金額 0円)

【保 険 料】 112,000 円

(9) 学校法人の沿革

- 明治 38年 12月 女子師範学校入学の予備教育を目的とする私塾として開校、斎藤女学館と称する
- 大正 15年 2月 甲種実業学校として設置認可される
- 昭和 3年 10月 長岡高等家政女学校に改称する
- 19年 3月 財団法人長岡女子商業学校として設置認可され、校名を変更する
- 21年 3月 財団法人名と学校名を、長岡高等家政女学校に改称する
- 23年 4月 新制高等学校に転換し、長岡家政学園高等学校と称し、中学校を併設
- 26年 2月 財団法人を学校法人長岡家政学園に組織変更認可される
- 31年 4月 高等学校名を中越高等学校と改称し、男女共学とする
- 34年 12月 学校法人名を中越高等学校と改称する
- 42年 6月 長岡みどり幼稚園開校
- 46年 3月 法人名を中越学園に改称する
- 46年 4月 長岡女子短期大学(経済学科)開校
- 48年 4月 長岡短期大学に改称する
- 61年 4月 長岡短期大学経済学科を経済専攻と経営情報専攻とに専攻分離
- 平成 2年 4月 長岡短期大学経営情報学科開設
- 3年 10月 長岡短期大学地域研究センター設立
- 5年 4月 長岡短期大学専攻科開設
- 6年 4月 長岡短期大学生涯学習センター設立
- 8年 3月 中越高等学校商業科廃止
- 11年 9月 長岡みどり幼稚園廃止
- 13年 4月 長岡大学(産業経営学部産業経営学科)開校
- 14年 7月 長岡短期大学廃止
- 19年 4月 長岡大学(経済経営学部環境経済学科・人間経営学科)を設置
(産業経営学部を募集停止)
- 24年 3月 長岡大学産業経営学部産業経営学科廃止
- 26年 4月 長岡大学(経済経営学部経済経営学科)を設置
(経済経営学部環境経済学科・人間経営学科を募集停止)
長岡大学地域連携研究センター設立
(長岡大学地域研究センター及び長岡大学生涯学習センターを合併)
- 28年 8月 長岡大学収容定員増に係る学則変更認可
- 29年 4月 長岡大学収容定員変更(320名→400名)
- 30年 5月 長岡大学経済経営学部人間経営学科廃止
- 令和 2年 5月 長岡大学経済経営学部環境経済学科廃止
- 4年 4月 長岡大学収容定員変更(400名→500名)

2. 長岡大学に関する事業の概要

(1) 建学の精神

- ・幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進
- ・地域社会に貢献し得る人材の育成

(2) 教育目標

<大学の使命・目的>

長岡大学は、地域社会の中核となる、地域に貢献できる人材を育成することをその使命とする。地域社会で生活していくためには、まず社会的・職業的に自立することが重要であり、しかもそれは他の人に容易に代替が効く「部品」ではなく、個性と人格を持った存在として認められるようになることが望まれている。本学においては、職業人として自立するための各種技能と、社会人として求められる一般教養など基礎的能力を併せて教育し、地域社会の要請に応えようとするものである。

<経済経営学部・学科の使命・目的>

経済学と経営学の基礎およびその学際領域を実践的に学ぶことで、持続可能な地域社会の実現に向けて自ら行動することのできる社会人基礎力と職業人として通用する専門的知識・技能を涵養する。

<教育ビジョン>

ビジネスを発展させる能力と人間力を鍛えるとともに、「毎日の大学生活で充実感を、能力アップを確かめて達成感を、卒業のとき4年間を振り返って満足感を」実感させることを目指す。

(3) 長岡大学“三つの方針”

(3-1) 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

長岡大学（以下、本学）では、建学の精神を踏まえ、次に掲げる能力を備えて地域社会の発展に貢献できる自立した人材を育成するものとし、本学学則に定める卒業要件に必要な年数以上在学し且つ単位を修得した学生に対し、学士の学位を授与します。

- 1 地域社会に貢献する姿勢
地域社会の実情を理解し、地域社会のために主体的に行動することができる。
- 2 職業人として通用する能力
企業や団体等の組織において職業人として必要とされる基本的な知識や能力を身につけ、行動することができる。
- 3 専門的知識・技能を活用する能力
常に自身の専門的知識・技能を高めることに取り組み、実際の場面に応じてそれらを活用することができる。
- 4 コミュニケーション能力
他者の意見や考え方を受け止め、理解するとともに、自分の意見や考え方をわかりやすく他者に伝えることができる。
- 5 情報収集・分析力
課題解決に向けた効果的な情報収集ができ、得られた情報の定性分析や定量分析を行うことができる。

(3-2) 教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる知識・技能等を修得させるために、教養科目、ゼミナール科目、専門科目の各区分において必要とされる科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講します。

教育内容、教育方法、教育評価については以下のように方針を定めます。

教育内容

- 1) 教養科目をキャリア科目、語学科目、情報科目、一般教養科目、体育科目の5つの科目群に区分し、専門教育の基礎となる知識と幅広い職業人として求められる教養を学修します。キャリア科目では、産業と職業の基礎知識の学修、自らのキャリア形成の目標の明確化、社会人として修得しておくべき基本的なビジネスマナー等の理解を図ります。グローバル社会に対応する語学力を養成するために、英語の他に中国語、韓国語、日本語（留学生科目）を学びます。ビジネス現場で必須の情報収集・分析力を高めるために、コンピュータを使った基礎的な文書作成能力と表計算処理能力および数理・データサイエンス等の情報関連の基礎知識を修得します。
- 2) ゼミナール科目を各学年に必修として配置し、1年次では初年次教育として大学での学びの基本、数学的能力、コミュニケーション能力、2年次では文書作成能力、プレゼンテーション能力、課題発見能力等を養成します。3年次と4年次では、卒業論文または活動報告書を成果物とする専門分野のテーマに基づいた調査研究への取り組みを通して、課題解決力や社会人基礎力を養成します。
- 3) 専門科目として、「経済」、「経営」、「会計」、「マーケティング」、「情報」の5つの専門コース（履修モデル）に関連する専門的な知識・技能を学修します。学生が選択した2つの専門コースにおいて、資格取得に対応した授業科目を含むコース推奨科目を履修することで、希望する進路に向けた専門能力を養成します。
- 4) 地域の実態把握、現場・企業の体験、地域課題を扱う地域志向科目により、地域社会への理解を深め、実践力と社会人基礎力を養成します。

教育方法

- 1) 学生の主体的な学修環境を実現するために、アクティブ・ラーニング手法を各授業科目の目標や進め方に合わせて実施します。
- 2) 1年次から4年次までの各ゼミナール担当教員がアカデミック・アドバイザーとして、学生の修学や学生生活に関する相談や指導等を行います。
- 3) 実践的な学修を推進するために、地域志向科目では学外での体験学修や地域で活躍する専門家を招聘する外部講師授業を積極的に取り入れます。
- 4) 専門知識の定着と学習習慣の醸成を目的として、学生の計画的な資格取得を推奨し、資格に対応した授業を資格対応科目として実施します。

教育評価

- 1) 大卒者として社会で求められる汎用的な能力・態度・志向等の学生個人の能力・資質等を客観的に評価するためのテストを学年ごとに実施し、社会人基礎力の測定を行います。
- 2) 各学科で定めた卒業要件（必修・選択科目等）の修得状況と各科目のシラバスで定めた成績評価によって総合的に評価を行います。

(3-3) 入学者選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

本学は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人物を求めます。

- 1 高等学校までの履修内容のうち、国語を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身につけている人物
- 2 高等学校までの学校生活におけるグループ活動や委員会活動等で他者と協働して取り組んだ経験を持ち、その中での自分の役割と成果を分析して説明することができる人物
- 3 学習意欲旺盛で新しい課題に自ら挑戦できる人物
地域の課題解決に関心があり、大学で学ぶ知識や経験を地域社会で活かしたいという目的意識と、卒業後は地域をリードしたいという意欲を持つ人物を求める。

(4) 中期計画に基づく令和5年度事業の進捗及び達成状況

第2期中期計画（令和4～8年度）に掲げる長岡大学の目指す将来像の達成を目指して、当該計画の2年目となる令和5年度においては、以下の項目について重点的に取り組んだ。

(4-1) カリキュラム・教学改革

① カリキュラムの継続的な点検と改善

- ・本学の教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づいて現行カリキュラムの点検を行い、令和6（2024）年度から稼働する新カリキュラム（2024カリキュラム）を編成した。
- ・数理・データサイエンス・AI教育に対応した新科目「データサイエンス基礎」（教養・選択科目）を開講した。

② 教育力の向上

- ・教育力の向上のため、FD（Faculty Development：教員の資質開発）に関する会議・研修を計画的に実施した（表1）。

表1 令和5（2023）年度FD会議開催実績

開催日	開催時間	内容
4月26日（水）	17：30～18：00	「2022年度大学コンソーシアム京都第28回FDフォーラム」参加報告
8月23日（水）	15：30～16：00	PROG解説と活用方法
	16：00～17：00	生成AIに関するディスカッションについて
10月25日（水）	16：30～17：30	シラバス記載方法の説明
2月21日（水）	13：00～14：30	地域志向教育研究発表会
	14：30～15：15	「全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム」参加報告
	15：30～16：30	ルーブリックのワークショップ
3月6日（水）	13：00～14：30	教授法のレベル向上のための研修

- ・本学の特徴的な教育プログラムである「学生による地域活性化プログラム」を推進し、当年度は11ゼミナールの学生147名が地域の課題をテーマに調査研究に取り組んだ。また、12月2日に一般公開で開催した「第17回 学生による地域活性化プログラム成果発表会」（ホテルニューオータニ長岡「NCホール」）において、各ゼミナールがその成果を発表した（表2）。

表2 令和5(2023)年度 学生による地域活性化プログラム 取組ゼミナール

No	ゼミナール	取組テーマ
1	広田秀樹ゼミ	グラスルーツグローバリゼーションー草の根・地域からの人類一体化の推進ー
2	鯉江康正ゼミ	まちの駅魅力発信プロジェクト
3	石川英樹ゼミ	栃尾地区ブランディング事業～他地域との灯りコラボへの挑戦～
4	権五景ゼミ	留学生の目線で長岡を紹介する
5	栗井英大ゼミ	オープンファクトリーで長岡を活性化！
6	生島義英ゼミ	長岡市撰田屋地区への理解を深め、魅力を見出し、活動により地域活性化を図る
7	百合岡雅博ゼミ	新潟のフードビジネスにチャレンジ
8	坂井一貴ゼミ	キャンプ・アウトドアをキーワードにした地域活性化への取り組み
9	喬雪氷ゼミ	長岡市東山地区の活性化を考えよう～人の集まる場所づくり～
10	高島幸成ゼミ	地域の小学校や民間教室と連動した情報教育の推進
11	深谷慎介ゼミ	学びを深める生活の場「レジデンシャル・カレッジ」の開設に向けた調査と実践

③ 単位制度の実質化

- ・全授業科目のシラバス（授業計画）において学修の到達目標と評価基準をルーブリックにより明示することで、学生の主体的学びを促した。
- ・単位制度の実質化（1単位：標準45時間の学修時間）に向けて、学生の授業時間外の学修時間を確保するために、各授業において適切に課題を課す等の対応を行った。

④ 学生の学修意欲の向上

- ・アカデミック・アドバイザー制度の一環として、ゼミ担当教員と学生とのマンツーマン面談（半期につき2回以上）を通して、学生の学修意欲の向上を図った。
- ・中退防止の方策として、年間を通して出席状況調査に取り組み、欠席の多い学生には早期に連絡を取り、個別に指導を行う等の対応を行った。
- ・学生に資格検定試験の受験を促すとともに、受験対策講座を開講することで合格に向けた支援を行った（表3）。
- ・多くの学生が資格検定試験に挑戦し、合格を果たした（表4）。

表3 令和5(2023)年度 資格検定試験対策講座 開講実績

対応資格検定試験	試験日	対策講座 開講日	延べ時間 (時間)	受講 人数
Word 文書処理技能認定試験 1・2級	12/9	①11/28、②11/29、③12/1、④12/5、⑤12/6 17:00～19:00	10	8
	2/2	①1/18 17:00～19:00、②1/26 17:00～ 19:00、③1/29 16:00～18:00	6	5
Excel 表計算処理技能検定 1・2級	7/1	①6/20、②6/21、③6/27、④6/28、⑤6/30 17:00～19:00	10	8
PowerPoint プレゼンテーシ ョン技能認定試験 上級	7/15	①6/30、②7/6、③7/7、④7/12、⑤7/14 17:00～19:00	10	9
福祉住環境コーディネータ ー検定 3級	7/14- 8/3	①6/9、②6/16、③6/23、④6/30、⑤7/7 9:00～10:30	7.5	8
福祉住環境コーディネータ	11/17-	①10/20、②10/27、③11/3、④11/10、⑤11/17	7.5	5

一検定 2級	12/7	13:00～14:30		
--------	------	-------------	--	--

表4 資格検定試験 受験者及び合格者数推移 (2022～2023年度)

資格検定試験	2022(令和4)年度			2023(令和5)年度		
	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率
Word 文書処理技能認定試験 1級	14	14	100.0%	11	8	72.7%
Word 文書処理技能認定試験 2級	62	33	53.2%	72	50	69.4%
Word 文書処理技能認定試験 3級	7	6	85.7%	22	13	59.1%
Excel 表計算処理技能認定試験 1級	18	13	72.2%	13	10	76.9%
Excel 表計算処理技能認定試験 2級	65	42	64.6%	59	44	74.6%
Excel 表計算処理技能認定試験 3級	15	11	73.3%	11	8	72.7%
PowerPoint プレゼンテーション技能認定試験 上級	45	38	84.4%	26	25	96.2%
IT パスポート試験	10	6	60.0%	9	6	66.7%
ドットコムマスターベーシック	17	11	64.7%	20	14	70.0%
マネジメント検定Ⅲ級(経営学検定初級)	12	8	66.7%	12	5	41.7%
日商簿記検定2級・ネット検定2級	22	5	22.7%	20	6	30.0%
日商簿記検定3級・ネット検定3級	61	21	34.4%	42	9	21.4%
リテールマーケティング(販売士)検定1級	1	1	100.0%	—	—	—
リテールマーケティング(販売士)検定2級	18	11	61.1%	9	7	77.8%
リテールマーケティング(販売士)検定3級	16	9	56.3%	13	9	69.2%
ファイナンシャル・プランニング技能士2級	4	2	50.0%	7	3	42.9%
ファイナンシャル・プランニング技能士3級	9	6	66.7%	9	5	55.6%
福祉住環境コーディネーター2級	—	—	—	9	1	11.1%
福祉住環境コーディネーター3級	23	8	34.8%	11	5	45.5%

※受験者数・合格者数ともに大学に報告のあったものに限られるため、合格率は参考値。

⑤ 図書館の利用促進

- ・「図書館だより」を毎月発行し、各種特集、図書館の使い方講座、新着図書紹介、展示コーナーの紹介等、学生・教職員への定期的な情報発信を通して利用促進を図った。

⑥ 教育のICT化

- ・令和4(2022)年度の入学者からノートパソコンの必携化を実施しており、2年生までの全員がノートパソコンを持参して学ぶ状況となった。

(4-2) 学生支援

① 課外活動を通じた学生の社会人基礎力の向上

- ・5月8日にコロナ感染症の法律上の扱いが5類相当に移行したことに伴い、それまで課外活動に関して行ってきた制限を全て解除し、活性化に向けて積極的な支援を行った。

② 学生の自主的活動に対する支援

- ・令和5(2023)年9月16日(土)～17日(日)に悠久祭(大学祭)を開催し、盛況のうちに終了することができた。
- ・学生の自主的活動を支援するヒューマン・パワーアップ・プロジェクト(公募型人間力育成奨励

金制度)に7件の事業を採択し、長岡大学後援会の協力を得て各事業の取り組みを支援した(表5)。

表5 令和5(2023)年度 ヒューマン・パワーアップ・プロジェクト採択事業

団体名	事業名	採択額
茶道サークル	茶事	42,322円
バレエサークル	バレエサークルVer.2	49,640円
珈琲紅茶同好会	オリジナルブレンドの作成	49,000円
軽音楽サークル	佐渡野外ライブ「響」出演	200,000円
軽音楽サークル	佐渡軽音楽支援事業 J-PROJECT 主催ライブ出演	122,000円
長岡再生会	里山再生プロジェクト	81,200円
ちびっこあそび隊!!	太鼓であそぼう!!	57,200円

③ 奨学金制度による学生への経済的支援

- ・(独)日本学生支援機構奨学金制度の学生への周知と適切な貸与・給付手続きの支援を行った。
- ・成績が思わしくない奨学金受給者に対して、学長、学生委員長と学生課長が面談を行い、個別指導を通して学習への動機づけを行った。

④ 充実した大学生生活の実現に向けた支援

- ・障がいのある学生の相談に対応し、個々の状況に応じた修学上の支援や配慮について全学的に取り組んだ。
- ・学生一人ひとりの人権を尊重し、ハラスメントを防止するために、新学期オリエンテーションにおいてハラスメントに関する学生への周知を図った。

(4-3) キャリア支援

① 就職及び進路について早期からの意識づけ

- ・学生の就職意識を高めるためにキャリア科目等における企業講師の招聘を計画的に実施した。
- ・企業見学バスツアーを計5回実施し、学生に業界研究の機会を提供した(表6)。
- ・令和6(2024)年1月29日(月)~30日(火)、長岡グランドホテルにおいて約80社の企業の参加を得て本学主催の合同企業セミナーを開催し、地元企業に対する学生の理解を深めた。

表6 令和5(2023)年度 企業見学バスツアーの概要

回数	日付	訪問先企業	参加者数
第1回	6月22日(木)	遠藤商事(株)、(株)SANKA、新潟トヨタ自動車(株)、新潟総合警備保障(株)	15名
第2回	7月7日(金)	ラミコジャパン(株)、(株)エヌ・シィ・ティ、(株)シンコー、(株)スミック	12名
第3回	7月20日(木)	(株)コメリ、(株)アークベル、中越運送(株)、(株)たかだ	14名
第4回	10月20日(金)	江部松商事(株)、(株)熊谷、(株)加賀田組、リコージャパン(株)	17名
第5回	10月26日(木)	(株)マルタケ、日産部品新潟販売(株)、燕市役所、外山産業(株)	12名

② 就職マッチングの徹底による就職後のミスマッチ防止

- ・就職支援室職員が年間を通して企業訪問を行い、詳細な求人情報を収集した。
- ・学生、就職支援室職員、ゼミ担当教員の三者で就職活動の状況を共有し、学生の就職活動を支援した。

③ 留学生の日本での就職を支援

- ・留学生の日本での就職を支援するため、留学生への就職関連情報の提供を行い、就職を希望する留学生3名全員が日本での就職を実現した。

④ 本学卒業生の入社後のフォローアップ

- ・本学の卒業生が就職した企業を就職支援室職員が適時訪問し、入社後のフォローアップを行った。また、やむを得ず離職した卒業生に対しては要望に応じて再就職支援を行った。

(4-4) 学生募集・広報

① 志願者数の増加

- ・延べ150回（前年度128回）の高校訪問を実施し、進路指導担当教員への情報提供を行った。
- ・進学説明会は高校内と会場形式を含め42件（前年度48件）に参加した。
- ・出前講座、分野別・系統別説明、小論文・面接指導等24件（前年度12件）に参加した。
- ・高校、中学校等の生徒による大学見学を34件（前年度26件）受け入れた。
- ・公式ホームページ、SNSを活用し、継続的に鮮度の高い情報発信に努めた。

② 入学定員の充足

- ・オープンキャンパス：5回（6/17、7/23、8/5、8/20）、ミニオープンキャンパス：1回（3/18）、進学相談会：2回（9/16、9/17）、入試対策講座4回（10/7、11/12、12/24、1/20）を計画通り実施し、参加者に本学の魅力を伝えた。
- ・本学入学者選抜の受験に向けて志願者の準備を促す目的で、オープンキャンパス参加者を対象として過去の出題傾向の解説を行った。

③ 適切な入学者選抜の実施

- ・アドミッション・ポリシーに基づき、本学の入学者選抜方法の点検を行い、一部見直しを図った。
- ・受験生の利便性を高めるため、インターネット願書受付システムを導入した。
- ・入学定員の充足と優秀な学生を受け入れるため、「学校推薦型選抜（指定校制）3月」及び「大学入学共通テスト利用選抜IV期」を実施した。

④ 留学生入試の実施方針の策定

- ・国際交流委員会と入学員会の連携の下、留学生入試の試験日程等の実施方針を検討し、留学生入試（国外）については、モンゴルと中国（蘇州）で入学者選抜を実施した。

(4-5) 地域連携

① 地域志向研究の推進と地域への研究成果の還元

- ・当年度の地域志向研究として2件の研究課題を採択し、各教員による調査研究を支援した（表7）。
- ・上記の地域志向研究の研究成果は、2月21日に本学で開催された「地域志向教育研究成果発表会」において報告が行われ、教職員間で共有した。

表7 令和5（2023）年度 地域志向教育研究 採択課題

研究者	調査研究課題
-----	--------

村越 真紀 准教授	台湾からの訪日教育旅行の新潟県へのニーズ調査と誘致へ向けた具体策の検討
深谷 慎介 専任講師	学生の学びの深化と地域・学生双方の福祉の向上を狙ったレジデンシャル・カレッジ設立を目指した事前調査

- ・前年度（2022年度）に本学教員が取り組んだ地域志向研究の成果を地域に還元するため、11月8日（水）に米百俵プレイス ミライエ長岡を会場として「地域イノベーションのための企業連携」をテーマに地域連携研究センターシンポジウムを開催した（表8）。
- ・論文誌「地域連携研究」（11月）を刊行し、学外に向けて教員の研究成果の発信を図った。

表8 長岡大学地域連携研究センターシンポジウム 2023 概要

テーマ	地域イノベーションのための企業連携
日時	2023年11月8日（水）16:00～17:30
会場	米百俵プレイス ミライエ長岡 ミライエステップ （長岡市大手通2丁目3番地10）
対象者	一般市民 他
参加者	38名（会場32名、オンライン6名）

② 関係諸機関との連携の推進

- ・NaDeC（ナデック）構想に基づく市内4大学1高専と長岡市、長岡商工会議所との連携の下、「Matching HUB Nagaoka 2023」に参加した。
- ・長岡商工会議所、NPO 法人長岡産業活性化協会 NAZE 等の産業界との連携を行い、産業振興に協力した。

③ 地域活性化への貢献

- ・栃尾地域における若者へのアンケートを実施し、624件の回収を得た。また、秋葉中学校、刈谷田中学校、栃尾高校の3校でヒアリング調査を実施した。

④ リカレント教育（社会人学び直し）の推進

- ・本学の専門性を生かした長岡大学公開講座をまちなかキャンパス長岡において全6講座開講し、延べ81名の受講者を得た（表9）。

表9 令和5（2023）年度 長岡大学公開講座 一覧

講師	講座名	日時	受講者数
吉川 宏之 （准教授）	Power Automate Desktop で操作を自動化（全3回）	6月5日（月） ～6月19日（月） 19:00～20:30	6名
あおい （古町芸妓）	あなたの知らない古町芸妓（全1回）	6月14日（水） 18:30～20:30	50名
百合岡 雅博 （准教授）	営業活動の重点見直しポイントを解説 効率アップ編（全1回）	6月28日（水） 16:00～18:00	6名
	営業活動の重点見直しポイントを解説 効果アップ編（全1回）	7月12日（水） 16:00～18:00	4名

広田 秀樹 (教授)	英字新聞に触れてみよう (全1回)	8月18日(金) 13:30~15:00	2名
中村 大輔 (准教授)	企業の決算書を読み解く (全5回)	9月28日(木) ~10月26日(木) 18:30~20:30	13名

⑤ 文化講演会の開催

- ・本学主催の文化講演会「メタバースとは何か」を開催し、約90名の参加者を得た。

長岡大学文化講演会 2023

日時：2023年7月14日(金) 18:30~20:00

会場：ホテルニューオータニ長岡NCホール

演題：「メタバースとは何か」

講師：岡嶋 裕史氏 (中央大学 国際情報学部 教授/政策文化総合研究所 所長)

(4-6) 国際交流

① 優れた留学生の受入れ

- ・中国とモンゴルの国外入試を実施し、モンゴルから2名の留学生(1年次:1名、2年次編入:1名)を受け入れた。また、国内からは1名の留学生を受け入れた。(1年次:1名)

② 留学生の充実した大学生活に向けた支援

- ・留学生連絡会を開催し、留学生への定期的な情報提供と指導を行った。
- ・留学生の修得単位数及び出席状況を確認し、個別に指導や支援を行った。
- ・日本語能力試験の受験を促し、認定率向上のための支援を行った。

③ グローバル社会に向けた意識向上

- ・悠久祭(大学祭)にモンゴルおよび中国の留学生のグループの出店があり、学生委員会(学生課)と国際交流委員会が連携し、成功に向けて学生への支援や助言を行った。

(4-7) 組織運営

① 組織運営体制の強化

- ・学長のリーダーシップの下で学内の委員会が効率的に運営され、各委員会の委員長により構成される月1回開催の大学運営会議において情報共有及び連携を図った。

② 外部研究資金獲得の促進

- ・全教員を対象として、科研費の応募に対する効果的な申請書類の作成に関する研修会を8月23日(水)に開催し、採択に向けた申請書のポイントについて確認した。
- ・令和6(2024)年度科研費の本学申請分について、採択された研究課題はなかった。
- ・外部研究資金の獲得を促進するために、年間を通じて企業や研究支援団体から寄せられる研究公募情報を総務課で適時に取りまとめ、教員へのメール配信により周知を図った。

③ 研究倫理教育及びコンプライアンス教育の徹底

- ・不正のない研究環境を維持するため、8月23日(水)に外部講師による「研究倫理・コンプライアンス研修会」を開催した。
- ・研究倫理・コンプライアンスに対する研究者の意識を高める啓発活動を教授会(6月21日、12月20日、2月21日)において実施した。

④ 危機管理体制の強化

- ・本学の危機管理（基本・個別）マニュアルの点検と一部の改訂を実施し、改訂について教職員への周知を図った。
- ・個人情報保護に関する教職員の知識を深める目的で、8月23日開催SD会議において外部講師による研修を実施した。

(4-8) 業務運営

① 業務効率化の推進

- ・従来から取り組んできた5S（整理、整頓、清掃、清潔、習慣化）活動を当年度も事務局を中心に計画的に実施した。

② 業務のICT化

- ・クラウドを活用した教職員間の情報共有を進めており、当年度においてはFD部会の企画によりGoogle Calendarの活用についての研修を開催した。

③ まちの駅としての施設開放

- ・5月8日に、それまでコロナ対策として行ってきた学外者の大学構内への立ち入り禁止を解除し、まちの駅としての施設開放（トイレ、図書館、食堂等の利用）を再開した。

(4-9) 人事政策

① 教職員人事制度の見直し

- ・教職員人事制度の見直しについて、引き続き学長による検討が行われた。

② 教職員の資質・能力向上

- ・教職員の資質及び専門的能力の向上を図るため、SD（Staff Development：教職員の職能開発）を計画的に実施した（表10）。
- ・学長裁量経費を利用した教職員の自己啓発（スキルアップ、資格取得など）に対する支援について、今年度は応募者がなかった。

表10 令和5(2023)年度 SD会議 開催実績

開催日	開催時間	内容
4月26日(水)	16:30~18:00	令和4年度中期計画達成に向けた「行動実績」の発表
		令和5年度中期計画達成に向けた「行動計画」の発表
5月24日(水)	16:30~18:00	ハラスメント防止講習会
6月21日(水)	16:30~17:00	令和4年度決算及び令和5年度予算説明会
	17:00~18:00	昨年度入試結果の分析と振り返り
7月19日(水)	16:30~18:00	障がいのある学生への支援
8月23日(水)	13:00~13:30	研究倫理・コンプライアンス研修
	13:30~14:30	科研費申請説明会
	14:40~16:10	個人情報保護法改正のポイントについて
8月24日(木)	9:30~11:30	Google Workspace 利用方法とDX化による業務効率化
	13:00~14:00	交通安全講習
9月12日(火)	9:30~10:30	消防・防災訓練
9月20日(水)	16:30~18:00	学生満足度調査の結果について
12月20日(水)	16:30~18:00	中期計画達成に向けた行動計画の中間報告
3月6日(水)	15:00~16:30	学生のジェネリックスキルの伸長度
		中退学ゼロをめざしてー学位授与に関する分析ー

(4-10) 内部質保証・情報公開

① 自己点検・評価の実施

- ・(公財)日本高等教育評価機構による令和5年度大学機関別認証評価を受審し、「適合」の認定を受けた。
- ・大学機関別認証評価の対象となった「令和5年度 自己点検評価書」及びその評価結果である「令和5年度 大学機関別認証評価 評価報告書」を本学ホームページに掲載した。

② 情報公開の推進

- ・本学公式ホームページに掲載する本学の基礎データを適切に更新するとともに、様々な取り組みに関する案内や報告を「新着情報」として積極的に発信することで情報公開を推進した。

③ IR (Institutional Research)※の推進

- ・本学卒業生を対象とする「卒業生アンケート」および卒業生の就職先企業を対象とする「就職先ヒアリング」を行い、「学生基礎データ」に基づいた分析を行った。分析結果は、3月6日開催のSD会議において教職員間で共有した。
- ・学生のジェネリックスキルを測る「PROGテスト」の結果や「学生基礎データ」を基に大学評価室が分析を行い、その結果をまとめた報告書「学生のジェネリックスキルの伸長度」および「中退学ゼロをめざしてー学位授与に関する分析ー」について、3月6日開催のSD会議において教職員間で共有した。

※教育、研究、財務等に関する大学の活動についてのデータを収集・分析し、大学の意思決定を支援するための調査研究

(5) 入試に関する状況について

① 入学者数

- ・1年次では、入学定員125名に対して83名(日本人学生81名、留学生2名)の入学を許可した。
- ・2年次へ1名(留学生1名)の編入学を許可した。
- ・県外からの日本人入学者は14名であった。

② 志願者数

- ・日本人の延べ志願者数は162名で、前年度229名に対して67名減少した。
- ・学校推薦型選抜入試(指定校、公募)の志願者は43名で、前年度49名に対して6名減少した。
- ・総合型選抜入試の志願者は13名で、前年度15名に対して2名減少した。
- ・一般選抜入試の志願者は39名で、前年度67名に対して28名減少した。
- ・大学入学共通テスト利用型の志願者は67名で、前年度98名に対して31名減少した。

③ 合格者の入学状況

- ・一般選抜入試と大学入学共通テスト利用型を合わせた合格者93名のうち入学者28名の割合は30.1%で、前年度(入学者56名/合格者149名)の37.6%に対して7.5ポイント減少した。

(6) 卒業生数、学位授与数と学生の活動に関する状況

① 卒業生数及び学位授与数 [名]

学科	令和5(2023)年9月卒業		令和6(2024)年3月卒業	
	卒業生数	学位授与数	卒業生数	学位授与数
経済経営	4	4	100	100

② 学位授与数（男女別・入学年度別内訳）[名]

学科	平成 28 年度 入学		平成元年度 入学		令和 2 年度 入学	
	男	女	男	女	男	女
経済経営	1	—	6	—	68	27

学科	令和 4 年度 編入学	
	男	女
経済経営	2	—

③ 進学状況

令和 6 年 3 月 卒業者

(大学院) 高崎経済大学大学院 研究生 1 名

(7) 就職の状況

- ・ 令和 5 (2023) 年度卒業生の就職率は 99.0% (就職者 96 名 / 就職希望者 97 名) となり、企業訪問による求人開拓や、企業と学生のマッチングを強みに高い就職率を維持することができた。
- ・ 留学生 3 名が日本国内 (県内 2 名、県外 1 名) で就職した。

【長岡大学就職率の年度別推移】

年度	令和元 (2019)	令和 2 (2020)	令和 3 (2021)	令和 4 (2022)	令和 5 (2023)
就職率	96.1 %	97.8 %	99.0 %	99.0 %	99.0 %

※就職率 (就職者数 ÷ 就職希望者数 × 100)

【主な就職先】 (順不同、[]内は人数)

建設業	トランスコスモス株式会社 株式会社ピーエスシー 株式会社ミロク情報サービス	金融業
大河津建設株式会社 株式会社加賀田組 株式会社国土 大栄産業株式会社 大成株式会社	卸売業	岡三にいがた証券株式会社 [2] 三条信用金庫 株式会社大光銀行 株式会社第四北越銀行 [3]
製造業	株式会社アジカタ 遠藤商事株式会社 [2] 神山物産株式会社 株式会社たかだ 株式会社たちばな 株式会社マックスマイル 株式会社マルタケ 株式会社諸長 新潟日野自動車株式会社 [2] 日産部品新潟販売株式会社 [2] 日本住環境株式会社 日本食研株式会社 リコージャパン株式会社新潟支社	不動産業
Jマテ.カップボード株式会社 株式会社 SANKA [3] 越後製菓株式会社 遠藤鋼機株式会社 株式会社コロナ 栄通信工業株式会社 佐渡精密株式会社 株式会社たかの 第一ネットマーケティング株式会社 [2] 津田工業株式会社 株式会社難波製作所 [2] 新潟関包スチール株式会社	小売業	高頭不動産株式会社 株式会社ファイブイズホーム
	株式会社 IDOM	生活関連サービス業
		株式会社新潟県厚生事業協同公社
		医療・福祉
		社会福祉法人刈谷田福祉会 社会福祉法人長岡三古老人福祉会
		運輸業
		越後交通株式会社
		サービス業
		HRT ニューオータニ株式会社 HITOWA ライフパートナー株式会社 Jマテ.ホールディングス株式会社

新潟太陽誘電株式会社 [2] パール金属株式会社 バクマ工業株式会社 株式会社本宏製作所 水島鉄工株式会社 三星金属工業株式会社 明道メタル株式会社 理研製鋼株式会社	アークランズ株式会社 アガリアルティソンググループ [3] イオンリテール株式会社 株式会社川内自動車 [2] 株式会社クスリのアオキ 株式会社コメリ [3] 新潟トヨタ自動車株式会社 株式会社日産サティオ新潟西 株式会社ビックカメラ 株式会社北越ケーズ 株式会社丸山自動車 株式会社メガネトップ	岡智紀税理士事務所 株式会社セレブリックス 株式会社友通商事
情報通信業		飲食サービス業
株式会社I 2 C NEC ネットソリューションズ株式会社 株式会社NS・コンビニエンスサービス 株式会社エヌ・シー・ティ		株式会社アントワークス
		公務
		柏崎市役所 上越市役所 自衛官一般曹候補生（陸上） [3]

(8) 令和5年度 施設・設備の整備状況

- ① 217 教室、226 教室エアコン更新 費用：5,467,000 円
- ② 2号館教室網戸取付 費用：977,900 円
- ③ 243 教室エアコン更新 費用：803,000 円
- ④ 223 教室エアコン更新 費用：748,000 円
- ⑤ 図書館電動書架修理 費用：198,000 円
- ⑥ トレーニングルームエアコン修理 費用：193,600 円

3. 中越高等学校に関する事業（令和5年度）

新型コロナウイルスの感染法上の位置付けが5類へと移行し、学校の教育活動もいわゆるコロナ禍以前の状態へと戻る傾向となった。体育祭や文化祭などを含めて、コロナ禍前の状態にほぼ近づけた状態で、それぞれの学校行事を行うことができた。来年度(令和6年度)は、新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症の感染防止・感染拡大防止対策に配慮しつつ、学校行事を含む学校教育活動全般についてより充実した形で実施したい。

部活動の大会についても、ほぼ予定通り実施された。野球の夏の甲子園予選県大会においては惜しくも準優勝に甘んじ、また、全国高等学校駅伝競走大会(都大路)の県大会においても、最後のアンカーのところで抜かれて優勝を逃がし、2位に甘んじたことは大変残念であった。

(1) 教育研究について

本校は、「建学の精神」を、「進取の精神」と「文武一如」の校風と、「質実剛健」の校訓に具体化し、社会人準備期間にある青年として成長させるべく教育を行っている。教育の成果として現れる具体的なかたちとしては、勉強と部活両面においての「質の高い自己実現」である。令和5年度は、「越高愛がとまらない！」をスクール・スローガンに、自ら中越高校を愛する気持ちを高め、それを行動に移し、また、人々から愛され、支援される中越高校を創り出すために、全校一致結束して具体的に目に見える結果や実績を出すことに注力した。

課題としては、普通コースの指導、特に教科学力向上と特進コースのテコ入れであり、その解決に向けた対策は前年度までと同様に以下の取り組みを行い、成果も出ている。1～2年生については、①週末課題、②基礎学力や学習習慣の調査として全国的な規模で行われている「スタディサポート」と「基礎力診断テスト」の有効活用、③学習意欲の喚起・学習習慣や基礎学力の定着に向けた手だてをとっている。更に、1・2年生の学力不足生徒向け温習は改善しながら取り組んでいる。④すべての学年で進学者向け特別補習(通年放課後補習及び長期休業中の補習)、年数回の各種・各社による外部模擬試験受験、就職補習(3年生)、小論文・面接指導(3年生)などを行っている。

ア. 教員個々の力量アップと校務運営及び教員組織力の強化

① 教育の専門家としての力量を高める。

- a. 半ば形骸化していた従来の校内授業公開を令和4年度に復活させ、令和5年度は実施回数も増やし、また、より中身の伴ったものに改革・改善した。
- b. 令和5年度は他校研修として、長岡市立東北中学校へ依頼、実施した。本校のグーグルクローム導入に当たり、先行実施している中学校の授業見学は非常に参考になる研修であった。今後も、より先生方が求める研修を企画する必要がある。なお、校外研修については、終了後その都度職員研修等で報告会を行うことで情報共有し、本校の教育活動にも少しずつ活かすことができている。
- c. カリキュラム変更・観点別評価の方法を決める際に、教科の意見を求め、情報共有をした。また、令和4年度から観点別評価に変わったこともあり、令和5年度は観点別の評価をするために、授業展開をどうするか等、教科で話し合う姿が増えた。このような、取組は今後も継続して行い、授業改善等に取り組んでいきたい。実際、評定平均値が他校に比べて低い、あるいは、成績概評のAが少ない等の問題意識から、各教科で観点別評価について指導と評価の一体化をさらに見直し、令和5年度は成績概評のAを大幅に増やすことができ、評定平均3.0以下の生徒を減らすこともできた。

以上の取組は、今後さらに充実・拡充し、継続し、徹底したい。

② 校務運営の効率化と教育活動面の充実を両立させる。

- a. 教職員それぞれに一人一台配備されてある PC 端末とタブレットなどの機器を使って、教職員間の情報共有及び分掌庶務や各種会議の効率化を図り、より円滑な校務運営を行っている。
- b. 上記タブレットや電子黒板等を用いた ICT 教育が、本格的に行われている。生徒の効率的かつ効果的な学習を促し、教員の授業力の向上に資するべく、日々改善に取り組んでいる。

イ. ペーパーレス化及び省エネ・節約の推進

① 上記 PC 端末とタブレットの活用により、ペーパーレス化を促進している。

② 令和 5 年度も、反故紙（裏紙）を積極的に使い、コピー用紙の使用金額を前年度より 34 万円弱減らした。また、節電、節エネ、節水を呼び掛け、これも前年度よりも年間を通じてほとんどの月で使用料を減らし、支払い金額は前年比で、電気は 95.1%、ガスは 75.1%、水道は水漏れ等の影響があり、107.8%であった。紙の節約、節電、節エネ、節水は今後も必須である。

ウ. 生徒の様々な努力の成果を讃える「年間努力賞」の定着

1 年生 199 人(58.9%)、2 年生 163 人(62.0%)、3 年生 146 人(50.9%)

(参考：年間努力賞の基準—当該生徒が人格・生活態度で問題ないことが「前提条件」。その上で①年間皆勤、②年間の学習成績優秀、③部活動の好成績、④英検・漢検・数検等の上級取得、⑤その他教職員から推薦のあった者)

なお、令和 6 年度より、年間努力賞の基準は変更することとしてある。

エ. 学習習慣づけ・基本的な生活習慣づけに向けた生徒指導の徹底

① 毎日の登下校指導（校長も毎朝生徒玄関で挨拶と声がけをしています。）

*登下校とも頭髪服装検査と挨拶の励行が基本指導。

*登校指導ではこれに加えて、駐輪場での自転車の置き方の指導・二重の鍵かけ指導を生徒会と共同で実施した。

② LHR、学年集会等の様々な場面で、学習習慣づけ・基本的な生活習慣づけの啓発。

オ. 学校カウンセラーの活用

学校カウンセラー（非常勤、週 2 回）を配置。生徒はもとより、父母や教職員も活用して、定着している。「いじめ防止対策推進法」に対応した校内組織「いじめ対策委員会」のメンバーにもなっている。

カ. 学力差のある生徒への学力向上対策

① 学力差の大きい生徒が一つのクラスに混在しているので、時間をかけて理解しやすい授業をすること、及び学習習慣や授業マナーの確立のために、夏休みの短縮等で授業時間を増やし、出張等の際可能な限り授業変更を行い、自習時間を無くすよう努めている。チャイムスタート・チャイムエンドをはじめとした授業マナーはかなり改善されている。

② 授業レベルに達しない学力が低い生徒向け補習の改善—英数国の 3 教科で実施。対象生徒は教科担当による指名制。着実に成果を上げている。

キ. キャリア教育・進路指導の充実

- ① キャリア教育ワークシート形式の市販教材を活用した指導や、生徒の意識改革をねらった指導に、年間を通して計画的に取り組んだ。
- ② 大学進学指導ー推薦による進学が多く（特に普通コース）、学力不足が否めないのが、対策として推薦希望者全員に大学入学共通テスト受験を義務づけ、学習継続を促している。特進コースは一般受験を勧めており、授業や補習もこれを前提にしている。大学進学後も活躍できる学力を保证する為に、平常補習と年3回程度の模擬試験受験を普通コース生徒にも課している。
- ③ 就職指導ー就職試験問題への早期取り組み、三段階の面接指導など、キャリア教育とリンクさせながら、出口指導の改善に取り組んだ。

ク. 部活動の振興

- ① 「進取の精神」と「文武一如」、「質実剛健」をリードする部活動
部活動の生徒たちが、生き生きとした表情で活動し、勉強も部活動も学校行事も真剣に取り組む生徒たちが学校の雰囲気を作っている。
- ② 気持ちの良い挨拶、地域の清掃活動などを通して、幅広く地域の皆さんから応援してもらう学校になってきている。
- ③ 重点的な部活動を定めて後援会からの補助金予算配分の重点化や顧問配置・外部指導者増加配置を進めている。また、部活動で力のある生徒を、特別奨学生と一般奨学生として採用した。

ケ. 元気の PTA 活動

この数年間は、コロナ禍のため十分な活動は行えなかったが、令和5年度については少しずつコロナ禍前の状態に近づくことができた。具体的には、フォトツアー、卒業生用の花リボン作り、文化祭での食品提供・販売、広報誌発刊など従来のPTA行事を実施。行事のアイデアなどはほとんどの学校では係教師が行事の提案をしてPの役員がそれに乗るという形だが、中越高校では伝統としてPの役員がいろいろな提案をするという点でもユニークで元気のある活動が再開されつつある。実際、過去においてはこれらの取組が評価され、平成22年には文部科学大臣表彰を受けている。

コ. 広報活動の強化

年延べ4回（7月27、28日と10月14日（午前と午後の2回開催））のオープンスクールを開催。参加者総数は、昨年度を上回る1,419名であった。

オープンスクール案内ポスター、中越高校の生徒の活動を伝える新聞（越高スポーツ）、部活動や大学進学に目覚ましい実績があると直ちに校舎に掲げる横断幕、懸垂幕を用意する等の広報活動を行なった。

本校の入試説明会を、塾講師向けと中学校教員向けにそれぞれ1回ずつ、保護者向けに2回（内1回は日曜日）に行った。昨年度に続き今年度も、それぞれの回においてかつてないほど大勢の参加者からお集まりいただき、例年会場として使う本校の大会議室が補助椅子を出してようやく全員入っていただいたほどであった（100名以上参加）。

(2) 生徒募集について

令和5年度の入学者数は、定員を大きく上回る349名（定員+29名）であった。令和6年度の入学者数は、さらにそれを上回り353名（定員+33名）であった。ちなみに、ここ数年しばらく定員割れ

が続いていた特進コースであったが、令和6年度は特進コースへは定員40名ちょうどの40名が入学した。詳しくは以下のとおり（数字は人数）。

	専願推薦		専願学力選抜		併願推薦		一般（2月）	
令和5年度	受験	162	受験	63	受験	1,433	受験	187
	合格	162	合格	51	合格	1,433	合格	151
	入学者	162	入学者	51	入学者	116	入学者	20
令和6年度	受験	158	受験	62	受験	1,417	受験	227
	合格	158	合格	50	合格	1,416	合格	145
	入学者	158	入学者	50	入学者	115	入学者	30

（専願推薦の内訳）

- 1 専願学力推薦（受験者及び合格者）：62名（過去21年で最多）内、特進1名
- 2 専願特活推薦（受験者及び合格者）：96名 内、特進0名
※専願学力選抜において特進コースは3名が受験し、3名とも特進合格となった。
- 3 併願推薦においては、内数で602名が特進合格となった。
- 4 一般2月入試においては、内数で8名が特進合格となった。

そして、令和6年度は令和5年度に引き続き、1年生の学級数が1つ増えて、普通コースが8学級（1学級増）、特進コースが1学級の計9学級となった（入学者数：普通コース313名、特進コース40名、計353名）。※令和5年度は、本校への入学者数：普通コース325名、特進コース24名、計349名であった。

中越高校の人気の高まってきているといえる。これらの数字に一喜一憂せず、しかし、自信を持って職員一丸となってこれからも前に進んでいきたい。

- 公立高校が第1志望という受検生が多数派である現実が目下の所変えようがないが、難関大学を目指せる長岡地区唯一の私学であり、大学等への進学状況や就職希望者の100%達成及び部活動の成果を内外に発信していく。

（3）就職・進学について

令和5年度の卒業生は287名。大学・短大への進学者は177名（61.7%、昨年56.5%、一昨年60.8%）、専修・各種学校への進学者は86名（30.0%、昨年30.4%、一昨年29.6%）、就職者は14名（4.9%、昨年10.0%、一昨年7.2%）であった。

令和4年度と比較し、大学等進学者率は5ポイント程度上昇した。女子生徒の大学等進学率に関しては、令和4年度と同様に若干の低下が見られ（47.8%、昨年49.6%、一昨年53.5%）、就職率は令和4年度よりも5ポイント程度の減少となった。長岡大学への入学者は1名（昨年6名、一昨年16名、一昨々年15名）であり大幅に減少している。

（4）学校評価アンケート結果について

別紙に記載。

（5）中越高等学校第一次中期計画（R1年度～R5年度）と5年目（最終年度）の総括について

別紙に記載。

（6）中越高等学校第二次中期計画（R6年度～R10年度）について

別紙に記載。

(7) 施設等の整備について

① サッカー場防球ネットの破網修繕工事

サッカー場の防球ネットが破網し、一部ネットには蔦が絡まりネットを傷めていたため、修繕と張替えを行った。

工事費 2,420,000 円

② 野球場（内野部分、外野部分）の表層改良工事

野球場グラウンドの表土が強風等により飛ばされ、硬い土の層が出て部活動等に支障が生じていたため、新たに黒土を搬入し、整備を行った。

工事費（内野部分） 1,760,000 円

工事費（外野部分） 2,970,000 円

③ グラウンド防球ネットのウインチ、昇降ワイヤー交換工事

錆びと摩耗で動かなくなったウインチと切断した昇降用ワイヤーの交換工事を行った。

工事費 803,000 円

④ 校舎東側外構フェンスの設置工事

校舎東側の市道に面したフェンスが積雪と経年劣化で倒れ、フェンスがない状態になっていたため、新たにフェンスを設置した。

工事費 979,000 円

⑤ 教務室、第1コンピューター室等のエアコン入替工事

故障により使用不能となった冷暖房機の入替えを行った。

工事費 2,246,200 円

⑥ テニスコートの整備工事

テニスコートの砂が強風等で飛ばされ表面が荒れており、ラインテープも釘が浮いて危険な箇所があったため、整備（砂補充、塩化カルシウム散布、転圧、テープ撤去・設置等）を行った。

工事費 1,760,000 円

⑦ 令和5年度会議室・廊下等の照明LED化事業

校内会議室・廊下等の照明を蛍光灯からLEDに取り替える工事を行った。

工事費 2,310,000 円

⑧ 生徒用シューズボックス入替事業

生徒玄関に設置されている生徒用シューズボックスが経年劣化により傷みが目立ってきたため、入替えを行った。

支払総額 6,600,000 円

⑨ 生徒玄関床長尺シート張替え工事

シューズボックスが設置されている長尺シートが劣化により色が褪せ、滑りやすくなっていたため、⑧の入替えに合わせ張替えを行った。

工事費 1,672,000 円

以上